

ごあいさつ

埼玉県保健医療部 副部長 石川 稔

皆様、こんにちは。御紹介いただきました埼玉県保健医療部副部長の石川でございます。

本日、部長が所用により出席できません。部長から、皆様へのあいさつを預かって参りましたので、御披露させていただきます。

本日、ここに、第3回埼玉輸血フォーラムが、多くの皆様の御参加のもと、かくも盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

また、皆様には、つね日ごろ本県の保健医療行政の推進に、多大な御理解と御協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、人々の善意の献血により得られた血液を、安定的に医療機関に供給するためには、「献血者の安定確保」と「血液製剤の適正使用」の二つが極めて重要でございます。

まず、「献血者の安定確保」につきましては、血液センター、市町村をはじめとする関係者の方々の御努力により、ここ数年順調に推移し、昨年度は、25万1千人の方々から献血をいただき、血液製剤を供給することが出来ました。

しかしながら、昨年10月、厚生労働省が行った若年層の献血意識調査では、16～29才の献血未経験者のうち、献血に関心がない人が56.3%に上り、3年前の調査よりも2.1ポイント低くなっており、若者の献血離れに歯止めがかかっていない実態が浮き彫りになりました。

このため、本県では将来にわたり必要な血液量を確保するため、若年層を対象とした「ゆる玉応援団による献血ありがとうキャンペーン」をはじめ、400ml献血や複数回献血を推進するための様々な啓発事業を展開し、献血者の確保に努めております。

その結果、昨年度、本県の高校生の献血者数は14,129人と、4年連続日本一となりました。

皆様方におかれましても、献血者の確保につきまして御支援を賜りますようお願い申し上げます。

次に、「血液製剤の適正使用」につきましては、代表世話人をお願いしている埼玉医科大学総合医療センター教授の前田平生先生をはじめ、県内の主要な医療機関の関係者、赤十字血液センターなどからなる「埼玉県合同輸血療法委員会」を設置し、安全で適正な輸血療法の推進を図っていただいております。

委員会では、県内各医療機関における輸血医療に係る情報交換や調査研究が活発に行われております。

本日のフォーラムでは、今年度の委員会の活動成果が報告されるほか、特別講演として「救急の現場から検査技師に期待するチーム医療」と題して、福井大学医学部の寺澤秀一教授に御講演をいただきます。

このフォーラムにおいて、県内の医療機関における輸血療法の諸問題が活発に議論され、輸血の安全性確保と血液製剤の適正使用についての理解が一層深まることを期待しております。

今後とも、720万県民が、必要な時に必要な医療が安心して受けられるよう、皆様方の、なお一層の御尽力をいただきますようお願いいたします。

結びに、本日御参会の皆様にとりまして、このフォーラムが有意義なものになりますよう、また、埼玉県合同輸血療法委員会のますますの発展を御祈念申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。